

第2期データヘルス計画の中間評価・見直しに向けて (国保・後期高齢者ヘルスサポート事業ガイドライン改訂案)

1. 目的

運営委員会並びに国保中央会は、第2期データヘルス計画策定に向けて平成29年12月、個別保健事業の実施支援に向けて平成30年3月にガイドラインの改訂を行った。

今般、令和2年度に予定されている第2期データヘルス計画の中間評価・見直しの支援にあたり、具体的な支援内容をガイドラインに提示するための改訂を行う。

2. データヘルス計画の中間評価・見直しの方法について

データヘルス計画においては、各保険者とも、複数の事業等に関して、4つの観点に基づいた評価指標を設定している。既存のガイドラインでは、データヘルス計画の策定時点で評価計画を策定し、それに基づき、中間評価・見直しを行い、必要に応じて計画の改訂等を行うものとしている。

多くの保険者において、平成29年度に計画策定を行い、平成30年4月から6か年を計画期間とした第2期データヘルス計画が策定された。平成30年4月からスタートした第2期データヘルス計画にとっては、策定から2年が経った令和2年度には、データヘルス計画の中間評価・見直しに取り組む保険者も出てくる。

図表 第2期データヘルス計画の中間評価・見直しのスケジュール

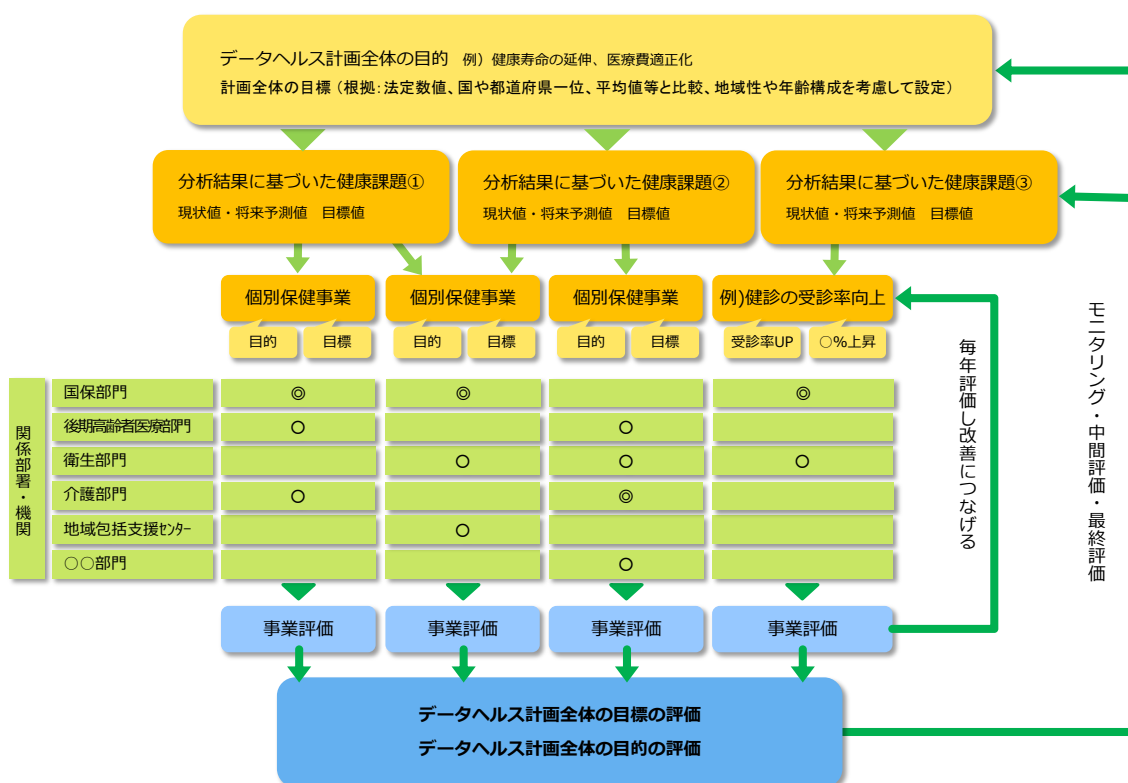
平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
サポートシート 配布							
計画策定	第2期データヘルス計画期間						
	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績				
			中間 評価	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	
			見直し			評価・ 計画策定	第3期 計画期間

中間評価・見直しにあたっては、以下のように、評価計画策定時の考え方を再掲した後、保険者支援の流れとして、表形式で計画の目的・目標を整理・自己評価したうえで、その記載内容をもとに、助言し、目標値の見直し等につなげる形としてはいかがか。

＜保険者におけるデータヘルス計画中間評価の進め方＞

データヘルス計画では、終了時点でその内容の評価し、次期計画につなげていく必要がある。そのため、計画策定時に、評価指標や評価体制、時期、方法を含めた評価計画を立て、データヘルス計画内に明記することが求められる。中間見直しでは、個別保健事業計画に基づいて実施された事業の実績等の振り返りを行いながら、計画の目的・目標について、4つの観点(ストラクチャー・プロセス・アウトプット・アウトカム)で整理し、評価をしていく必要がある。

図表 データヘルス計画の評価の流れ

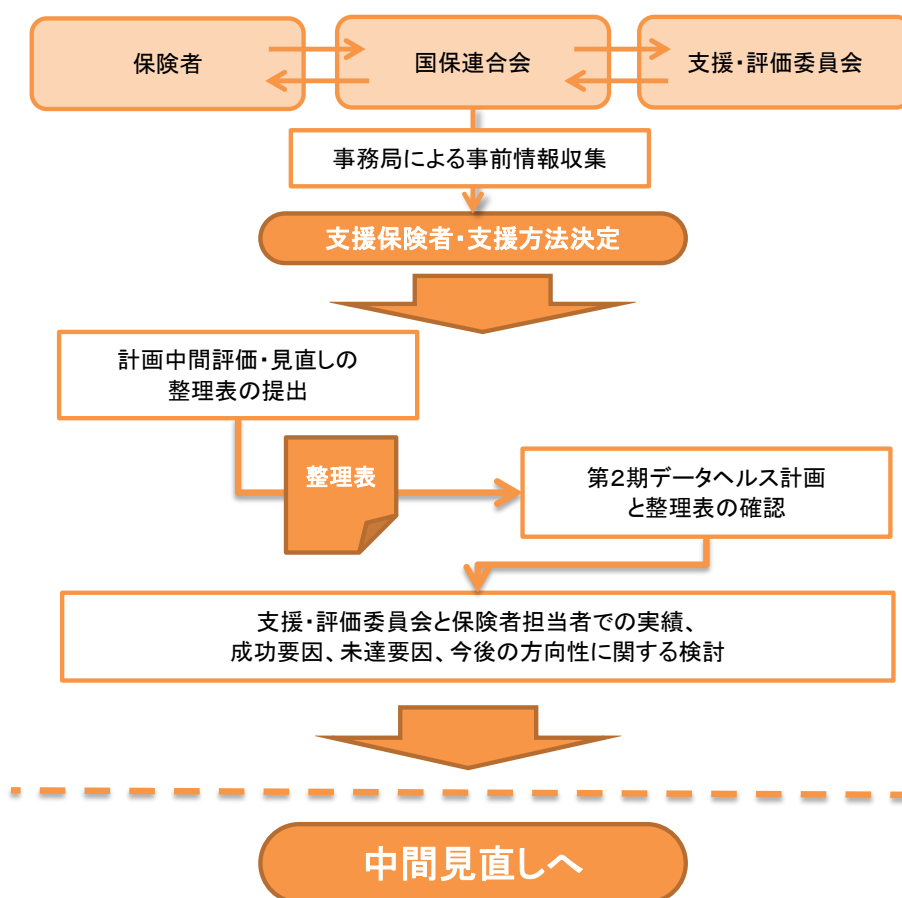


＜支援・評価委員会におけるデータヘルス計画中間評価の流れ＞

データヘルス計画の中間評価は、計画に記載されている複数の個別保健事業についての評価を積み上げたものとなる。そのため、中間評価にあたっては、各保険者にて必要となる事業について「個別保健事業評価シート(様式5)」により評価をした結果について、「計画の評価・見直しの整理表」に保険者自ら整理をし、支援・評価委員会による助言を受けるようにする。

支援・評価委員会は第2期データヘルス計画と整理表で記載された内容(実績値と成功・未達要因)を確認し、4つの観点と照らし合わせながら、実現可能性の高い目標値、並びにそれを達成するための方策を助言する。

図表 データヘルス計画の中間評価・見直しに関する支援の流れ



図表 データヘルス計画の4つの観点での評価指標

指標の種類	データヘルス計画の目的・目標の場合
<p>ストラクチャー</p> <p>(計画立案体制・実施構成・評価体制)</p>	<p>計画の目的・目標を達成するためのしくみや体制のこと。</p> <p>計画を策定するために十分な人員や予算が確保できたか、事業運営委員会などを設置する等、関係者との連携ができたか、など。</p>
<p>プロセス</p> <p>(保健事業の実施過程)</p>	<p>計画策定手順のこと。</p> <p>健診データ、レセプト、その他の統計資料、日頃の活動の中で収集した質的情報等のデータに基づいて現状分析したか、現状分析を踏まえたうえで、課題抽出、事業選択ができたか、など。</p>
<p>アウトプット</p> <p>(保健事業の実施状況・実施量)</p>	<p>計画に記載した事業の実施状況に関すること。</p> <p>重症化予防事業の実施の有無を含め、データヘルス計画に記載した保健事業をどの程度実施したか、など。</p>
<p>アウトカム</p> <p>(成果)</p>	<p>計画を実行することにより目標・目的の実現を目指すこと。</p> <p>健康寿命が何年延長したか、データヘルス計画にて設定した目標に達することができたか、データヘルス計画に記した目的を達成あるいは近づくことができたか、など。</p>

様式5 個別保健事業 事業評価シート（事業実施後）

作成日 年 月 日

様式5 個別保健事業 事業評価シート（事業実施後）

保険者名： _____

事業名： _____

事業目標：					
	ストラクチャー評価	プロセス評価	アウトプット評価	アウトカム評価	総合評価
評価項目・評価目標					
達成（未達成）状況の確認と評価					

個別保健事業 事業評価シート（事業実施後）記入における留意点

○ストラクチャー評価

- ・保健事業を実施するためのしくみや実施体制を評価する。
- ・保健事業を実施する上で無理のない効果的な体制となっていたか、または事業評価を実施する上で評価結果を得ることのできる体制となっていたかの観点から評価する。
- ・例として、保健事業を実施する上での職員の体制、予算の確保状況、施設・設備の準備状況、医療機関等の関連する機関との連携体制づくり、社会資源の活用状況、等。
- ・当初の計画通りに体制づくりができなかった場合、その理由を振り返り、要因を検討し、次年度の計画へ反映させていく必要がある。

○プロセス評価

- ・保健事業の目的や目標の達成に向けた過程（手順）や活動状況を評価する。
- ・個別保健事業計画にもとづき評価するものであるが、保健事業を実施する上での準備状況、実際の保健事業の内容、保健事業の事後フォローの内容が考えられる。
- ・例として、対象者の選定方法、対象者へのアプローチ方法（通知方法や保健指導方法等）、保健事業を実施した後の記録、保健事業参加者からの評価結果、等。
- ・保健事業を実施する際、計画立案時には想定していなかった事態が生じた場合、状況に合わせて的確に対応したかについても評価する。
- ・当初の計画通りに進まなかった場合、その理由を振り返り、要因を検討し、次年度の計画へ反映させていく必要がある。

○アウトプット評価

- ・計画時点で設定した事業実施量に関する達成状況を評価する。
- ・評価指標で示した事業実施における各項目がどの程度達成できたのかを評価する。
- ・当初の計画通りに達成できなかった場合、その理由を振り返り、（ストラクチャー評価、プロセス評価も含め）要因を検討し、次年度の計画へ反映させていく必要がある。

○アウトカム評価

- ・計画時点で設定した成果目標の達成状況を評価する。
- ・評価指標で示した事業の実施成果に関する各項目がどの程度達成できたのかを評価する。
- ・当初の計画通りに達成できなかった場合、その理由を振り返り、（ストラクチャー評価、プロセス評価、アウトプット評価も含め）要因を検討し、次年度の計画へ反映させていく必要がある。

○総合評価

- ・保健事業の目標の達成状況を評価する。
- ・ストラクチャー評価、プロセス評価、アウトプット評価、アウトカム評価を総合的に評価するものである。次年度の保健事業実施へ向けて、どの点を継続し、どの点を改善していくのかを検討していく。

計画の評価・見直しの整理表案

項目	目標		実績値				改善状況等に 関する評価	成功要因	未達要因	事業の方向性	最終目標値
	具体的 内容 (値)	種類	ベース ライン	H29 年度	H30 年度	R1 年度					
健康寿命	延伸	oc	〇歳 (H28)				d				〇歳
特定健診実施率	60%	oc	25.1 (H28)	25.2	25.8	26.2	a				30%
特定保健指導実施率	60%	oc	41.5 (H28)	38.5	45.5	46.7	a				50%
糖尿病性重症化予防	事業参加者 30人	op	10人 (H28)	15人	16人	25人	a				30人
...											

計画に記載した事業
や全体の目標を記載

必ずしも目標値がない項目もあるが、可能な限り記載してもらう

目標の種類を記載
s: ストラクチャー
p: プロセス
op: アウトプット
oc: アウトカム

アウトプット・アウトカム指標等で実績値がある場合は、目標値がない場合でも可能な限り記載してもらう

ベースラインと実績値を見比べて、下記の4段階で評価
a: 改善している
b: 変わらない
c: 悪化している
d: 評価困難

実績値と成功・未達要因を鑑み、実現可能性の高い目標値、並びにそれを達成するための方策を助言する